

令和2年度

宮城県立がんセンター地域医療連携の会 中止のお知らせ

連携機関の皆様には、平素より格別の御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年より毎年開催させていただいておりました宮城県立がんセンター地域医療連携の会ですが、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大している状況を鑑み、今年では中止することと致しました。当院のさまざまな取り組みを皆様にご覧いただき、また当院についての御意見を皆様から直接お聞かせいただける機会を失うこととなってしまい、誠に申し訳ございませんが、何卒御理解賜りますようお願い申し上げます。

地域医療連携室長 鈴木眞一



外来新患診療体制表

2020年8月現在



(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●		●	●
腫瘍内科		●		●		●
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科				●		
緩和ケア内科				●		●
呼吸器外科				●		●
消化器外科			●			●
乳腺外科	●				●	
整形外科			●		●	
形成外科			●			●
脳神経外科	●			●		●
泌尿器科	●			●	●	
婦人科	●		●		●	
頭頸部外科	●		●		●	
放射線治療科	●		●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 桜交 **R 東北本線** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
仙南交通 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152 (直通)
(022) 384-3151 (代) 内線123
- FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴママークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

2020. 8 Vol.47

地方独立行政法人宮城県立病院機構

がんセンター 便り



宮城県立がんセンター地域医療連携室

患者サポートセンターオープン!

患者サポートセンター長 **山田 秀和** (病院長)

本年4月より患者サポートセンターがオープンいたしました。これは従来の地域連携室とがん相談支援センターを統合したもので、お互いの仕事をより効率的に行うための組織改編です。サポートセンター内には従来通りこれら2つの部門は存続しますが、これまでそれぞれに分かれて所属していた医療ソーシャルワーカー(MSW)を統合・増員し、患者サポートセンター全体の業務を分担して行うことといたしました。これによりMSWの作業効率が上がり、より有機的できめ細やかな患者対応ができることを期待しています。また同時に地域連携業務に携わる看護師の増員も図り、より患者さんや関連医療機関との連携を密に図れるように致しました。従来がんセンターでは地域連携室にあまり人員を割くことができず、患者さんや関連医療機関にご不便をかけてきたかと思えます。今年の当センターの一番の目標は地域連携業務の充実であり、今回の患者サポートセンターの創設はそれに基づいたものです。我々は「癌治療のプロフェッショナル」を自負しています。病気の治療を行うだけでなく医療の均霑化が進んだ現在、ある程度どこの病院でもできるかもしれません。がんセンターはそれに加えて“よりよく”患者さんを直すことを目指しています。がん治療のスペシャリストたる業務の1つが患者のサポートと考えています。従来、がん相談支援センターはがん患者の相談・支援業務では宮城県をリードしてきたと自負しています。連携業務でもできれば宮城県のがんに関する地域連携をリードする存在にしていきたいと考えています。加えて昨年より活動を開始した入退院センター(現在はまだ外来の看護師が業務を行っていますが)を近い将来患者サポートセンターに統合し、入院から退院まで、一貫した患者サポート体制の構築を目指します。患者サポートに関わるご意見や要望があれば、ぜひお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。



前列左より
鈴木 眞一(地域医療連携室長)・山田 秀和(センター長)・藤谷 恒明(がん相談支援センター長)・星 久美(副センター長)

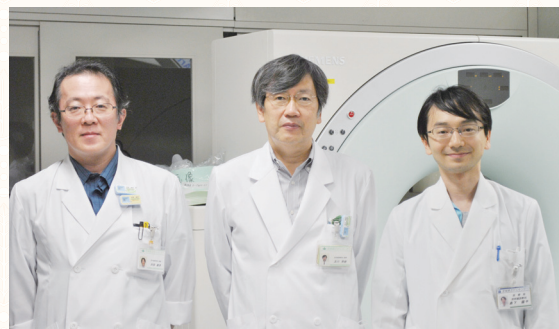
放射線診断科紹介

放射線診断科診療科長 おいかわ ひでき 及川 秀樹

放射線診断科はがんセンター前身の宮城県成人病センターが設立された昭和42年に開設され(当時は放射線科)、当地では50年以上の歴史を有する診療科です。

【スタッフ紹介】

及川(北海道出身、腹部骨盤領域担当)、阿部(宮城県出身、乳腺、胸部領域担当)、森下(東京都出身、脳、頭頸部領域担当)の3名の放射線科専門医で診療を行っています。出身地も専門領域もバラバラですがラグビーワールドカップ日本代表の様にone teamでの診療を心掛けています。当センターは県南地区で3名の専門医を有する唯一の施設ですが、それでも他地域のがんセンターに比べると約半数の人員となっています。



向かって左より
阿部 藤清あべ ふじまよ・及川 秀樹おいかわ ひでき(診療科長)・森下 陽平もりした ようへい

【診療内容】

放射線診断科は、CTやMRIなどの画像診断機器を用いた診断に特化した診療科です。近年の診断機器の進歩は著しく、日常診療における放射線診断医の果たす役割は飛躍的に増加しています。特に癌診療においては病変の発見から病期診断、治療効果判定、合併症の評価、再発診断のいずれの局面でも画像診断の果たす役割は非常に重要です。当院ではCT、MRI、核医学、PET、血管造影検査が年間2万件以上施行されており、その殆どの症例に対し画像診断報告書が作成されています。また症例の経過報告や治療方針の確認、決定を行うカンファレンスに参加し、各診療科の医師との連携を深めています。

一方で放射線診断機器を用いた低侵襲治療(Interventional Radiology)も積極的に実施しています。頭頸部癌や膀胱癌に対する選択的動注化学療法、多血性腫瘍に対する塞栓療法、動脈性出血に対する経カテーテル的止血術、経皮的膿瘍ドレナージ、CT下生検などを行っています。特にCT下生検は豊富な経験を有し、頭蓋内を除くほぼ全身の部位に対応可能です。生検施行により病理組織診断による良悪性の鑑別のみならず遺伝子変異の検索が可能となり適切な治療方針決定に貢献していると考えています。

最後に当科は近隣の医療機関からの患者さんの画像検査のご依頼に対応しております。当科での画像検査のご希望がございましたら、地域医療連携室にお問い合わせいただければ幸いです。

診療放射線技術部紹介

診療放射線技術部長 ちゅうばち こうじ 昼八 弘二

【人員体制】

診療放射線技術部は診療放射線技師24名および医学物理士2名で構成されています。

【業務内容】

画像診断部門

区分 月 年度別	画像診断部門																
	一般撮影							特殊撮影									
	頭部 頸部	胸部 腹部	骨部	歯科	ポータ ブル	乳房 ガイド下 生検	上部 消化管	下部 消化管	尿路 その他	肝胆脾	血管撮影 (CT-Angio)	CT	MR	超音波	RI	PET-CT	
R1年度	78	21,657	3,511	375	4,581	1,892	18	323	146	937	196	85	12,586	5,852	765	655	1,687
H30年度	84	23,012	3,698	333	4,410	2,124	20	533	197	1,077	187	98	12,168	5,976	691	844	1,545
H29年度	81	22,457	3,334	293	4,062	1,981	23	296	148	970	247	132	11,927	6,003	609	846	1,491
H28年度	78	21,561	3,510	288	4,574	1,882	17	325	173	1,035	221	109	11,496	5,808	590	783	1,475
H27年度	95	20,777	3,109	306	4,661	1,928	26	333	223	868	204	115	11,246	5,917	591	783	1,454

※ RIとは核医学検査のこと。 ※ 一般撮影と特殊撮影は、診療報酬体系に基づくもの。 ※ ポート埋め込みは特殊撮影を含む。
 ※ 22年度より、乳房ガイド下生検集計開始 ※ 23年度より超音波検査は診療放射線技師施行の件数のみ集計 ※ 25年度9月よりPET-CT集計開始
 ※ 27年度より歯科撮影(デンタル・パノラマ)集計開始

診療放射線技師の業務を大きく分けると画像診断と放射線治療になります。画像診断には単純X線撮影を中心とした一般撮影、CT、MRI、RI、PET-CT、腹部超音波検査があります。マンモグラフィや歯科撮影、透視装置を使った撮影、造影剤を使用した造影X線検査も広義には一般撮影に含まれます。

令和元年度の実績はマンモグラフィ1,910件、歯科を含む一般撮影は29,827件、MRは2台稼働しており5,852件、RI検査は655件、血管撮影は85件です。がん検診でも活用されているPET-CTは1,687件で平成25年開始以来、着実に件数は増加しています。平成31年2月に1台増設し2台で運用しているCTは12,586件となっています。内容的には造影CTが全体のおよそ70%を占め、DECT(デュアルエネルギーCT)、心臓CT、大腸CT等の特殊検査とともに撮影後のワークステーションを使用した画像処理によるデータ提出も増えて所要時間は通常検査よりも長くなる事が多く、件数だけでは計れない業務量の増加があります。腹部超音波検査は765件となっています。

放射線治療部門

がん治療にはいくつかの治療法がありますが、その中で大きな役割を果たしているのが放射線治療になります。当センターにはリニアック装置2台、トモセラピー、密封小線源を使用したRALSがあります。リニアックおよびトモセラピーで行うIMRT(強度変調放射線治療)という治療法は正常組織へのダメージを少なくし腫瘍により高い線量をあてることができます。IMRTが治療計画どおりに実際に正しく照射できるかを確認する検証作業が必要で通常の治療よりも開始までに多くの時間を要することになります。検証は医学物理士と診療放射線技師が行っています。令和元年度実績はリニアック12,653件、トモセラピー5,224件、RALSは43件となっています。IMRTは7180件で近年増加傾向にあります。



前列左から3人目 ちゅうばち こうじ 昼八 弘二 部長